

# News Letter

## Column

うらかな春の日差しとはうって変わる、動物病院の春は繁忙期の真っ只中。皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本動物看護学会は、1995年から動物看護学を学問ととらえ発展させ、学術及び社会的責務を担う活動を行ってきた団体です。

私は、1996年から日本動物看護学会とほぼ同じ年数で、動物看護師人生を送ることができております。振り返れば動物看護師を取り巻く環境はずいぶんと変化した…進化したのかもしれませんが。その中で、私たち動物看護師が行う仕事で変わらないことは「動物看護」だと思います。その動物看護を、「なんとなく」や「動物だからこれくらいでいいだろう」というあやふやなものではなく、確立された定義や意義のもと行いたいと、動物看護を長く続けてきたからこそ強く感じるようになりました。

初めは、日本動物看護学会の役割が何を意味しているのか、どんな役割があるのかもわからずに、院長に勧められるまま、動物病院の待合室について調べ始め学会発表をしたのがきっかけで所属しました。今は、この会を活性化させるためのプログラム委員会に常務理事として在籍しております。

日本動物看護学会は、決して小難しいことをやっている団体ではないことを、再度言っておかなければならないでしょう。簡単に言えば日々の看護を文字にし、記録に残し、それを公の場で共有しているのです。そして行った動物看護を、確立するために学会誌に掲載できる唯一の場なのです。「動物看護」をもっと身近に、新人もベテランも動物看護について率直な意見交換をかわし、より良い看護実践ができる基盤を動物看護師が作っていく場なのです。

目指す方向はわかっています。後は方法を動物看護師みんなの力で探しながら進んでいだけになりました。動物病院だけの所属ではなく、動物看護を確立する役割、そこに関わっていく役割が動物医療に携わる皆さんにあります。実現するための意見交換を一緒に沢山していきましょう。やり方がわからないときは日本動物看護学会もサポートします。今日も暖かな手を、動物達に、飼い主さんに差し伸べるあなたとともに！

崎山 法子

## Announce

# 日本動物看護学会 第26回大会 開催のお知らせ

第26回大会は、2017年7月1日(土)・2日(日)にヤマザキ学園大学にて開催されます。

- 【会場】 ヤマザキ学園大学(東京都八王子市南大沢)
- 【大会長】 山崎薫(学校法人ヤマザキ学園 ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物専門学校 理事長)
- 【テーマ】 動物看護の歴史と将来展望
- 【プログラム】 主催校企画シンポジウム

1日目 動物看護の歴史 2日目 動物看護の将来展望

※一般演題(口頭・ポスター)、事前申し込みについては追って詳細を発表いたします。



## 第43回例会 開催報告

第43回例会は、2016年10月14日（金）桜美林大学四谷キャンパスにて開催されました。

聖マリアンナ医科大学病院で昨年4月より導入された「勤務犬ミカ」のハンドラーである看護師の佐野政子氏を講師として招き、大学病院として初めての動物介在療法実施に至る経緯から現況まで詳しくお話しいただきました。当日は医療関係者、獣医療関係者、教育関係者、学生等40名を超える参加者が、このユニークな取り組みについて聞き入りました。また、ミカのもう一人のハンドラーである小児外科医の長江秀樹先生からもコメントをいただくことができ、会場からは活発な質問が飛び交いました。

「QOLの下がった患者さんに対して、人のケアには限界があるが、動物はそれを越えることができる」という言葉に、動物介在療法の大きな可能性を感じました。このような取り組みがさらに発展していくためには、動物に対する医療関係者の理解が不可欠です。そのためにもミカのますますの活躍が望まれます。

### ●主なプログラム

【開催時間】18:00~20:00 佐野政子先生（聖マリアンナ医科大学病院）

### 講義タイトル

「聖マリアンナ医科大学病院における動物介在療法—勤務犬ミカの挑戦」



勤務犬ミカ



会場の様子

### Information

## 年会費納入のお願い

本会は会員の皆様からの年会費によって運営しております。

同封の振込用紙にて、2017年5月末日までに年会費をご入金くださいますようお願いいたします。

### 【主な正会員の特典】

- 大会・例会での発表資格の取得、及び会員価格での参加
- ニュースレターの配布、及びホームページでの閲覧
- 学会誌「Veterinary Nursing」の配布、及び投稿

なお、年会費のご入金の確認できない場合、今後のお知らせ等の発送を停止させて頂くことがあります。また、本会会員資格を喪失した場合には、本会認定動物看護師資格も喪失し、再度認定を受けることはできませんのでご注意ください。